

1. 広島湾再生パネル展（平成 27 年 3 月 7 日～8 日）



～広島湾再生パネル展～ 森・川・街・海のつながりを活かした広島湾づくりに向けて <開催報告>

1. 開催の目的

広島湾再生推進会議は、広く一般の方へ広島湾再生に係る産学官の各機関及びNPO等団体の取り組みを紹介することを目的として、パネル展を開催しました。

今回のパネル展では、広島湾だけでなく、河川や森林で行われている広島湾の魅力を支える様々な取り組みについて紹介するとともに、間伐材を使ったクラフトや川のアシを使ったアシ舟、漂着ごみを使ったアート作品など具体的な取り組みを紹介しました。また、「～広島湾の風土・風景～」と題した写真家 脇山功さんの写真の特別展示も行いました。

2. 開催概要

開催日：平成 27 年 3 月 7 日（土）9:00～19:00
平成 27 年 3 月 8 日（日）9:00～19:00
会場：イオンモール広島祇園 3F フォセット前スペース
主催：広島湾再生推進会議
協力：イオンモール広島祇園

展示概要

<クラフト、アシ舟、ごみアート>

◆間伐材を使ったクラフトや川のアシを使ったアシ舟、漂着ごみを使ったアート作品の展示

<森・川・海の取り組み紹介>

◆NPO、企業、研究機関、行政による森・川・街・海の取り組み紹介
◆ごみトランクミュージアム、デザインマンホールの展示

<広島湾再生行動計画の紹介>

◆広島湾再生行動計画の概要
◆森・川・海のつながりとは？
◆伊能図と海図で見る広島湾
◆広島湾「+1」宣言（第六管区海上保安本部の協力により、会場にて子どもたちに広島湾「+1」宣言を記入していただきました）

展示にご協力頂いた団体等

◆NPO 法人等

EPO ちゅうごく、自然環境ネットワーク SAREN、瀬戸内里海振興会、ひろしま NPO センター、もりメイト倶楽部 Hiroshima、ゆあーず「食」未来研究所

◆市民団体等

エコロジー研究会ひろしま、京橋川かいわいあしがるクラブ、広島県釣りインストラクター連絡機構

◆企業

海洋建設（株）、JFE スチール（株）、中国電力（株）

◆研究機関

広島工業大学、広島大学

3. 来場者

パネル展には、2日間で 373 名（1 日目 185 人、2 日目 188 人）の方にご来場いただきました。

4. 開催状況

4-1. 展示コーナー



クラフト、アシ舟、ゴミアート、森・川・海の取り組み紹介（NPO 等）



森・川・海の取り組み紹介（企業、研究機関）

森・川・海の取り組み紹介（行政）



パネル展会場（フォセット前スペース）



間伐材を使ったクラフト



漂着ごみを使ったアート作品



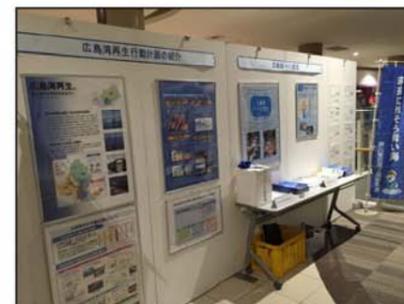
デザインマンホール



ごみトランクミュージアム



広島湾「+1」宣言



広島湾再生行動計画の紹介、広島湾「+1」宣言



特別展示 広島湾の風土・風景
写真家 脇山 功

4-2. 開催状況



クラフト作品、アシ舟や漂着ごみアートに見入る来場者



森・川・海の取り組みの紹介パネルに見入る来場者



全体の様子



「広島湾の風土・風景」写真に見入る来場者



広島湾
「+1」宣言
プラスワン

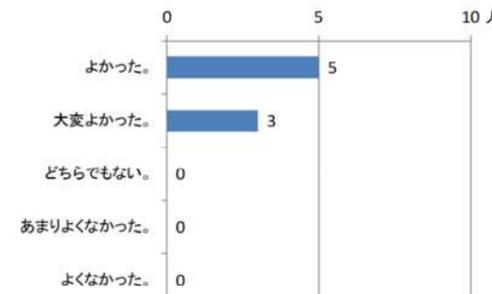
3月8日(日)は、第六管区海上保安本部の協力により広島湾「+1」宣言を実施し、来場した子どもたちに、海を守るために自分たちで出来ることを用紙に記入していただきました。

5. 来場者アンケート結果

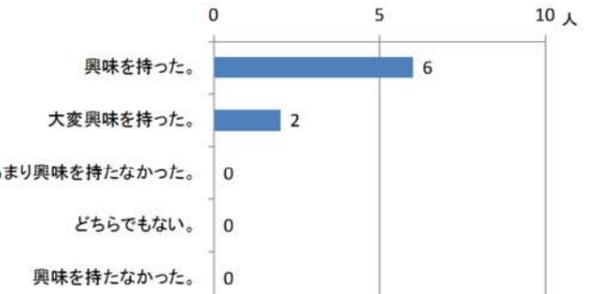
来場者へのアンケート結果によると、今回のパネル展では、**広島湾再生行動計画の紹介が最も印象に残った**との結果が得られました。

パネル展については、ほとんどの方がよかったと回答し、広島湾の森・川・海の大切さや取り組みについても興味を持ったとの結果が得られました。

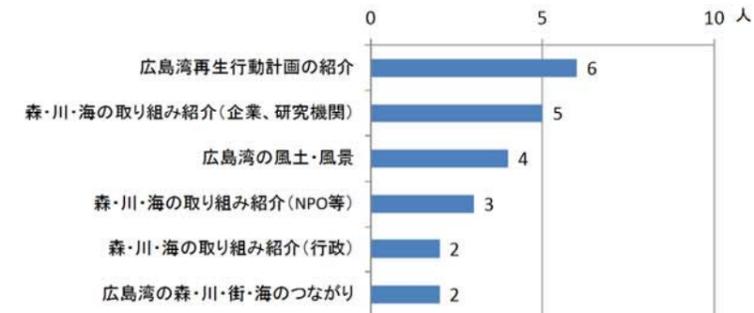
また、今後参加してみたいイベントとしては、**海岸ごみなどの清掃活動が最も多くなっていました。**



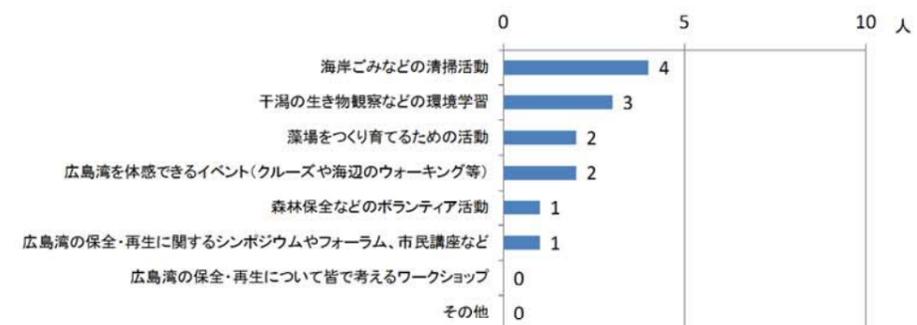
今回のパネル展の感想



今回のパネル展で、広島湾の森・川・海の大切さや取り組みについて興味を持ったか?



今回のパネル展で印象に残った展示



今後、広島湾の保全・再生のために参加してみたいイベント

来場者アンケート結果(有効回答数:8) ※一部未回答あり

<アンケートでのご意見・感想>

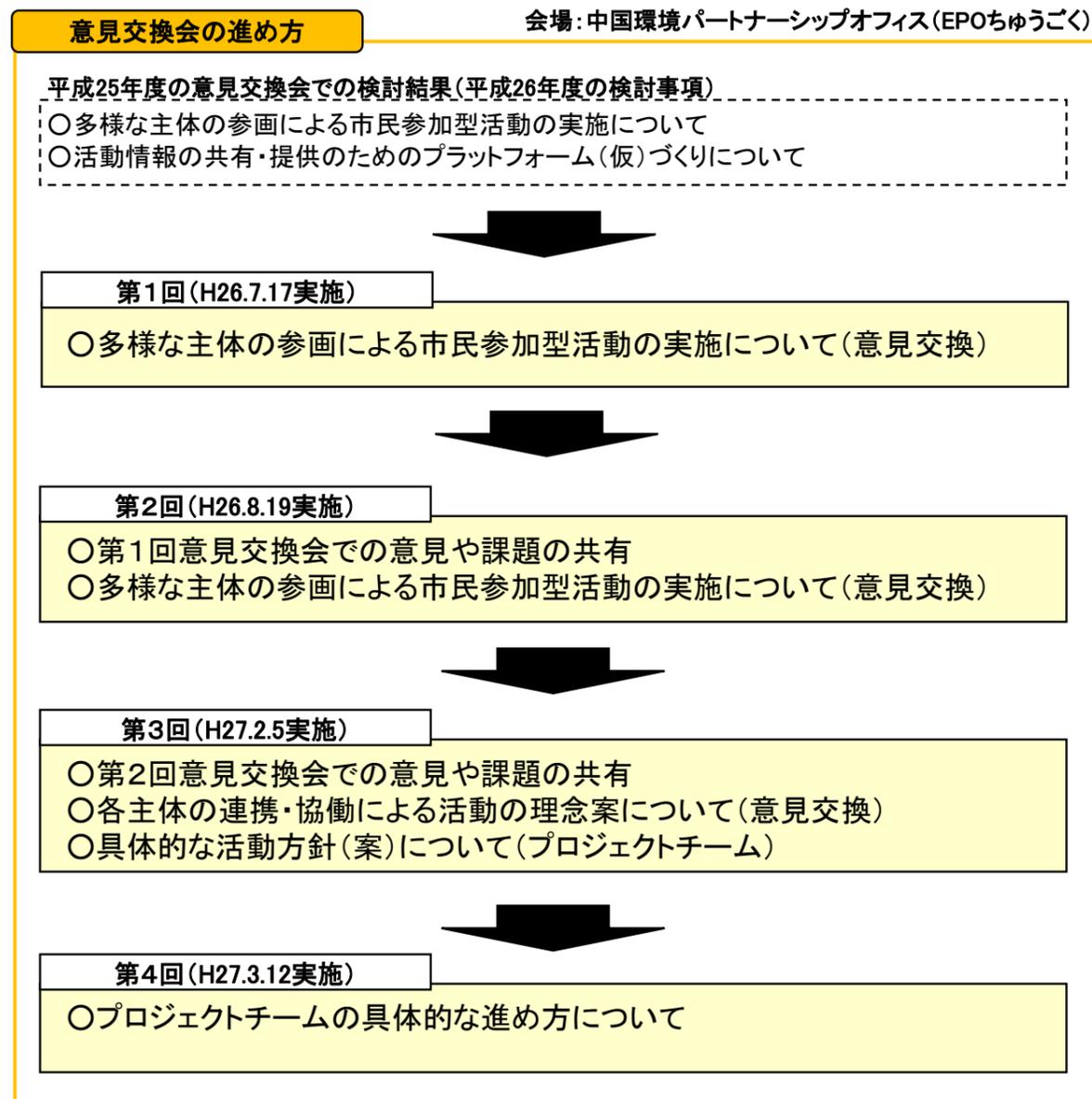
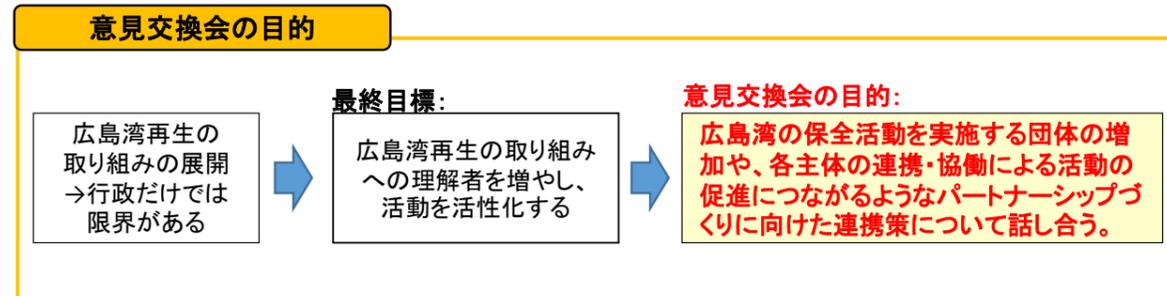
- ・パネルや写真だけでは無く、ビデオなどの映像も展示して欲しい。
- ・土木は自然破壊してきたというイメージが強いので、その反省からこういう活動が生まれた、という説明があってもよいと思う。
- ・森・川・街・海のつながりのパネルでは、小学校の教科書や参考書に記載されている内容(例えば、川のはたらきについて説明されているページ)も一緒に見せると、身近に感じて関心が深まると思う。
- ・基町で活動している「もともち自遊ひろば」などとジョイントイベントをしてみるのも面白いと思う。

3. 広島湾再生のための連携に向けた意見交換会について

3. 1 実施概要

広島湾の保全活動を実施する団体や、各主体の連携・協働による活動の促進につながるようなパートナーシップづくりに向けた連携策について話し合うため、NPO等と行政関係者による意見交換会を4回開催した。

意見交換会に参加したNPO等の団体名



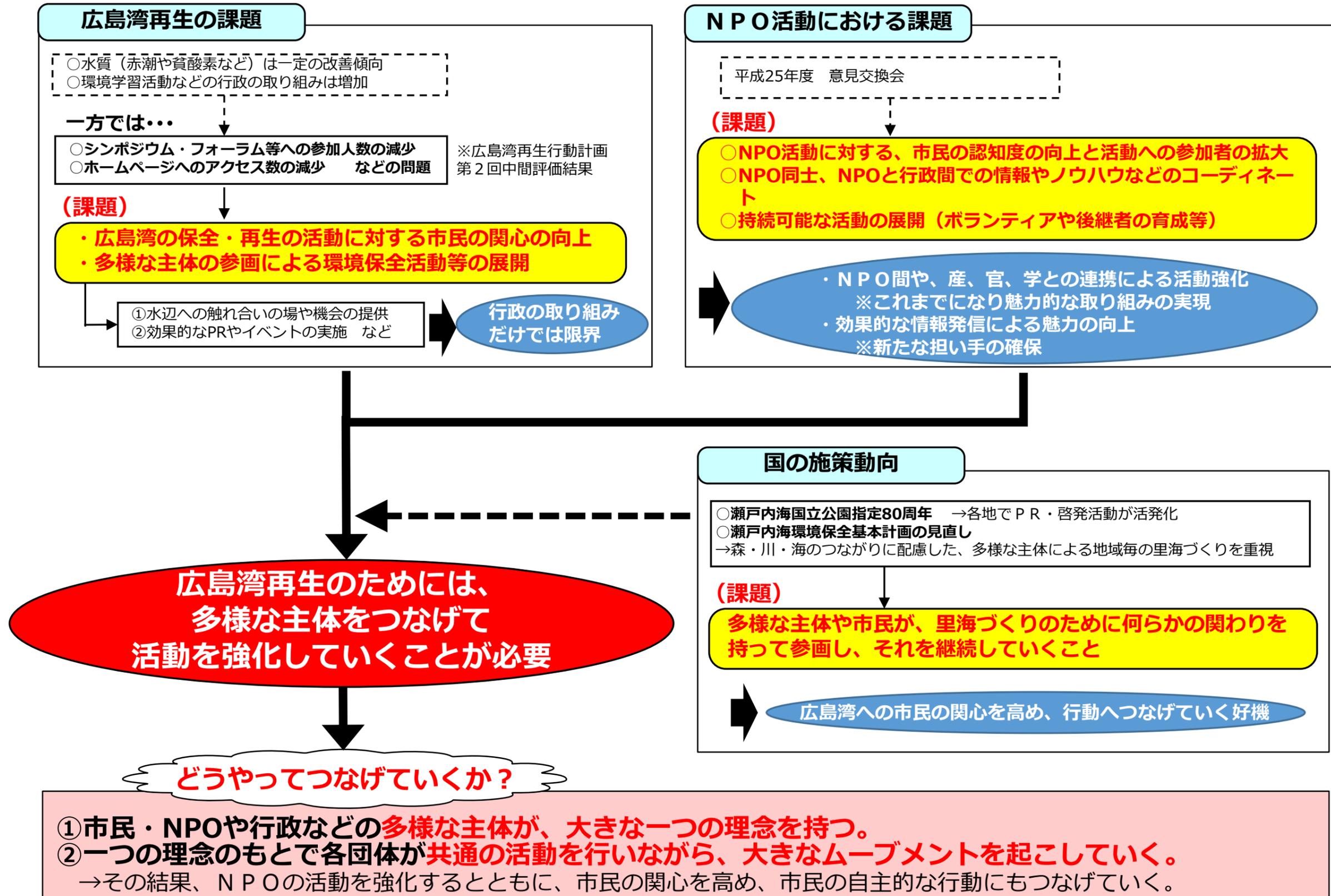
団体名	
エコロジー研究会ひろしま	
京橋川かいわいあしがるクラブ	
NPO法人 自然環境ネットワークSAREN	
NPO法人 瀬戸内里海振興会	
(公財)日本釣振興会広島県支部	
NPO法人 ひろしまNPOセンター	
広島県釣りインストラクター連絡機構	
NPO法人 ひろしまシン大学	
広島連塾Sus☆テラス	
NPO法人 もりメイト倶楽部Hiroshima	
NPO法人 ゆあーず「食」未来研究所	
EPOちゅうごく「環境省中国環境パートナーシップオフィス」	ファシリテーター



実施概要

意見交換会 開催状況

課題の整理



理念 (案)

(仮) ~森・川・街・海をつながりを大切に、私たちが世界に誇れる里海「広島湾」を目指す~

「森・川・街・海をつながりを大切にすることが、広島湾の再生につながる」をテーマに、私たち市民が愛着を持って、自らの手で、豊かで親しみやすい、世界に誇れる里海「広島湾」づくりを行う。

他にはない、広島湾の特徴

1. 水・自然

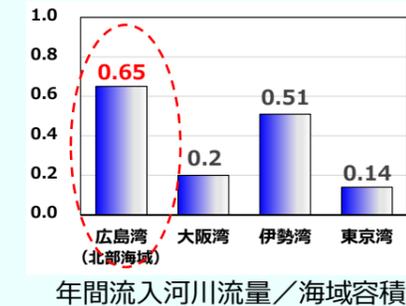
- 流域の7割以上が森林。 ※東京湾や大阪湾は4割以下
- 1年間に、北部海域の容積の6割以上に相当する河川水が流入。
※東京湾や大阪湾では1~2割程度

➡ 森から出て川を流れる豊かな水が、カキ養殖などの豊かな海を育む

2. 人・触れ合い

- 広島湾は、島の数が多く、自然と触れ合える箇所が多い。
- 太田川では全国でも珍しい、都市部でのシジミ漁が行われている。
※シジミは川と海の水が混ざる場所で生息するので、森・川・街・海をつなぐ里海づくりのシンボルになる

➡ 人々の生活が、森・川・海・島に密着している



太田川のシジミ漁 (雁木組HPより)



干潟との触れ合い観察会 (宮島)

広島湾独自の里海づくり

- ・豊かな里海「広島湾」を目指すために、都市部や島を含む色々な人々が関わりながら、森・川・街・海が連携した活動を実施していく。
- ・森が荒廃したり川からのごみが多くなれば、東京湾や大阪湾以上に環境へ悪影響を及ぼすことを市民にPRし、保全活動への参加を促す。

世界に誇れる広島湾の里海 (SATOUMI) づくり

「里海」は瀬戸内海で生まれた概念 → ローマ字の「SATOUMI」として、世界も注目

我が国のこれまでの里海づくりは、「海の再生」を目的にしたものが多数

森・川に加え都市部や島まで巻き込んだ里海づくりは、これまでほとんど例を見ない試み

広島湾が、新たな里海モデルとして、世界的に注目されることが期待される。

森・川・街・海の連携により期待される効果

- ①市民が森・川・街・海をつながりの大切さや取り組みの重要性を知り、日常生活の中で出来る活動を実践
- ②森・川・街・海における活動間の広がり・連鎖
(例：海の清掃活動参加者が、森や川の清掃活動にも参加)
- ③次世代の広島湾再生を担う子どもたちの育成
(例：学校教育では教えない森・川・海の大切さを教える) など

具体的な活動方針（案）

理念（案）

（仮）～森・川・街・海のつながりを大切にし、私たちが世界に誇れる里海「広島湾」を目指す～

「森・川・街・海のつながりを大切にするのが、広島湾の再生につながる」をテーマに、私たち市民が愛着を持って、自らの手で、豊かで親しみやすい、世界に誇れる里海「広島湾」づくりを行う。

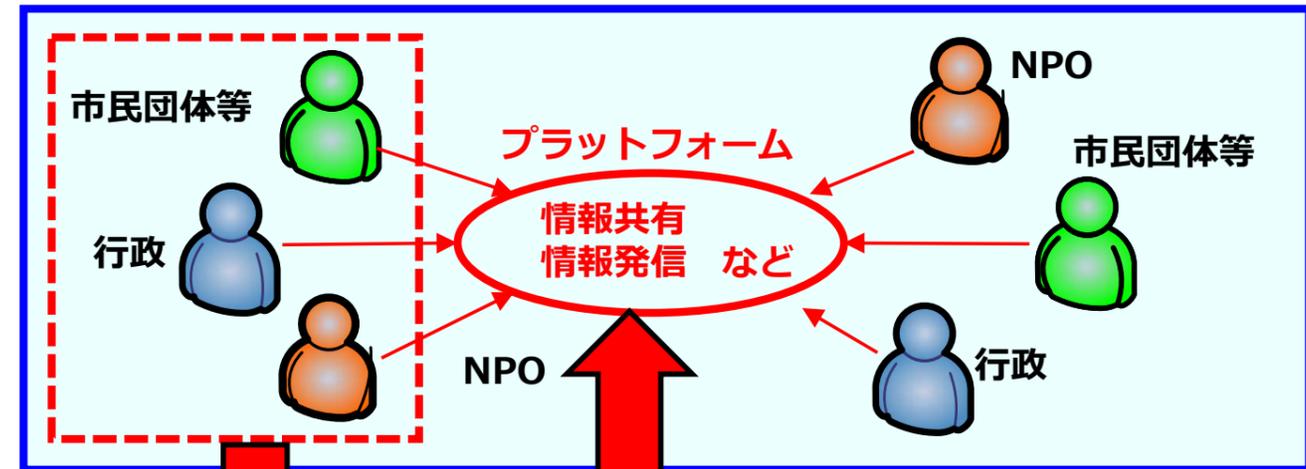
Step 1

まずは、共通の理念のもとで、多様な主体が広島湾独自の里海づくりを行うための情報共有や情報発信の場として、**共通のプラットフォーム**をつくる。

Step 2

プラットフォームに参加するメンバー（任意）が、自分たちがやってみたい活動のテーマを決めてプロジェクトチームをつくり、具体的な活動やイベントの実施に繋がっていく。

共通のプラットフォーム



プロジェクトチーム（複数）

- ・活動のテーマを決めて、具体的な活動やイベントを企画・提言。
- ・興味のあるメンバーが任意でチームに参加。
- ・必要に応じ、新規メンバーもプロジェクトに追加。

森・川・街・海のつながりを大切にするためのプロジェクトを行いながら、将来的には市民も巻き込んだ里山・里海づくりを目指す。

都市部や島の方々が加わることによる、**他にはない、広島湾独自の里海づくり**

NPO等との連携に関するスケジュール(案)

